

ごあいさつ

大阪大学医学部附属病院
病院長 木村 正

平成 30 年 4 月 1 日に病院長を拝命いたしました産科学婦人科学教室教授の木村 正でございます。平成 30 年度も大阪大学医学部附属病院へのご支援、ご指導を何卒よろしくお願いいたします。

本冊子では平成 29 年度の本院の活動をご紹介します。平成 29 年度は野口前病院長の強力なリーダーシップの下、がん医療や臨床研究に携わる多くの先生が協力し「がんゲノム医療中核拠点病院」の指定を受けることができました。これは平成 27 年度に日本で最初の「臨床研究中核病院」に認定されたことに次いで、本院の機能を強化していく上で極めて大きな出来事であり、がん診療に新しい風を送り込む推進役を期待されてのことと存じます。また、臨床研究推進の拠点として未来医療開発部の機能を更に強化し、平成 30 年 4 月より本格的に施行された臨床研究法に対応した臨床研究を強力に推進するための体制整備を行った年でもあります。さらに、平成 28 年度より始まった、高質かつハイボリュームな臨床研究を展開するための「大阪臨床研究ネットワーク(OCR-net)」の構築が進み、平成 29 年度末には約 8 千床分の電子カルテがセキュリティーの高いネットワークで結ばれました。

今の日本の医療界において、例え非常に難しいことでも、また新しいことへの挑戦であっても求められるのは十分な医療安全です。特に高次医療機関に対する世間の目は厳しく、野口前病院長時代に更なる医療安全体制の強化・病院ガバナンスの強化がなされました。本院は歴代病院長の指導の元、執行部の一貫性のある方針により医療安全の強化に努め、医療安全マネジメント体制は全国大学病院の模範とされております。

本院は、これら優れた臨床研究支援体制と医療安全マネジメント体制の下で、手術などの観血的医療を中心とする数多くの高度急性期医療を行い、優れた基礎研究の知見を実臨床に供するべく医師主導治験や企業治験を行っております。本冊子をご覧いただくと、すべての分野が非常に前向きに診療・教育・研究に取り組んでいることが見て取れると存じます。吹田移転 25 周年を迎える平成 30 年度は、再開発に関する議論・請願を文部科学省と続けるとともに、限界が来つつある病院面積を更に有効に使うための病棟再編（グループ化）を実施しています。本冊子をご覧いただいた皆様方におかれましては、私どもの病院にまだ足りないところ、ご利用いただきにくい点などをご指導いただき、私どもの更なる発展にご助言を賜りますようお願いいたします。末尾になりましたが膨大な本冊子の編集・作成にあたり、多大な労を尽くしてご担当いただきました各位に深謝申し上げます。